

令和2年度 京都大学一般入試 出題意図等

国語（理系）

- ・「出題意図等」とは、出題意図または標準的な解答例のことです。
- ・入学試験問題の満点や配点については、試験問題に記載のとおりです。
- ・各学部における個別学力検査の配点については、一般入試学生募集要項に記載のとおりです。
- ・標準的な解答例については、ここに示す表記に限るものではありません。
- ・「出題意図等」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

理系

出題意図（問題一全体）

題材の文章は文学論であるが、すべてが明示的に語られているわけではなく、論旨の読み取りには一定程度の読解力が必要である。このような文章において筆者の論議を正確にたどることができるか、また人間一般の微妙な心理的傾向にかかわる叙述の読解ができるかを問う。あわせて文章理解を適切な表現によって表現できるかを問う。

出題意図（個別問題）

問一：傍線部（1）に示されている人間心理の微妙な綾を読み取り、それを適切に叙述する能力を問う。

問二：文中の人間心理の描写を踏まえて、傍線部（2）の「自分の欠点を相手のこととして並べ立て」ることが「他人を有効に罵」ることにつながることを確認し、それを適切な表現で表す能力を問う。

問三：アウグスチヌスの人間心理についての理解を描いた箇所を参考に、傍線部（3）で言う「矛盾」が何を意味するか読み取り、その事態を正確に叙述する能力を問う。

問四：筆者の必ずしも読み取りやすいとはいえない論議を丹念にたどって、傍線部（4）に言う「信念」喪失の理由を読み取り、その理由を正しく叙述する能力を問う。

出題意図（問題二全体）

民俗学、習俗に関わる内容を含んだ論説文を題材として、その中に引用される文章などと論説文自体の論旨がどう関わるかを正確に理解した上で、論述の流れを的確に把握する力、およびそれを簡潔な文章で表現する力を問う。

出題意図（個別問題）

問一：筆者が用いる「危機」という言葉の指すところ、およびそう述べる理由を、引用されている随筆の内容を踏まえて、適切な表現で明確に説明することを求める。

問二：設問の箇所を含む段落のみに着目するのではなく、より広くその前後で述べられている内容をも勘案して、比喻とも考えられる表現の意味するところを論理的に記述することを求める。

問三：文章の、とりわけ後半の内容に目配りして、筆者の述べるところ、ならびにその主張の根拠を正確かつ過不足のない形で表現することを求める。

出題意図（問題三全体）

江戸時代の国学者 富士谷御杖の随筆集『北辺随筆』の中の一編全文である。古今和歌集や万葉集の歌を引用しながら、過去の言葉と当代の言葉を対比して論じている。古語および古典文法の知識に基づいて、筆者の論旨を適切に読み取り、平易に現代語訳・説明できているかを確認する。

出題意図（個別問題）

問一：指示語の対象を文脈から適切に読み取れているか、文を構成する各々の語の意味をよく理解しているかを確認する。

問二：本文で示されている筆者の解釈を適切に読み取れているか、それをもとにして歌の意味の説明ができているかを確認する。

問三：傍線部がどのような事態を述べたものかを、本文の論旨に照らして理解することができているか、その理解を分かりやすく説明できているかを確認する。